指宿　立　監督（日本パラ陸上競技連盟強化委員長）　11 月 11 日中間総括

若い選手が良く頑張っている。特に石田　駆選手。よいパフォーマンスを出していると思う。特に 400mではあともう少しだった。2020 年東京パラリンピック出場にはランキングの枠もあるので期待したい。10 年前だと立位の選手がスプリントで決勝に残る事は無かったことで、長く関わっている私にとっては感慨深いものがあった。女子では佐々木真菜選手。アジアパラの金メダリストとしてメダル獲得はならなかったが、良く走ったと思う。福島県から代表内定が出た事も大きいのではないか。

やり投げは、決勝に残るのは最低限だと思っていた。インド、スリランカの選手達と引比較するとまだまだ力不足であるが、一時高橋選手が 4 位に位置するなど、よく頑張っていた。若手 3 人「やりーず」と命名したが、何とかランキングで東京出場枠を獲得してもらいたい。この種目は今までパラリンピックに出場することや世界選手権で入賞することはなかったので、若い 3 人衆に期待したい。

車いす T52 男子は、2 年近くマーティン、佐藤との直接対決が無かったので佐藤本人もメダルを期待されている事で緊張してドバイに入ったと思うが、彼らしい走りができたのではないか。期待通りの走りだった。伊藤選手については、今回のクラス分けで 2021 年までクラスが確定できた事で、出場資格(クラス)を得た事、メダル獲得出来たこと、出場枠が取れた、この３つが同時に最初の競技で確定したのは大きな意味があった。日本の強みでもある T52 は今後もフォーカスしていきたい。

他は、和田伸也選手、高田千明選手、山本　篤選手のベテランもしっかり枠を取ってくれた。山本選手は、本調子ではないと話していたが、確実に 4 位以内に入ってくれた。2020 年の本番までにしっかり調整してくれるものと思う。

強化委員会としては、引き続き合宿などで強化していきたい。また、今大会には出場できなかったが若い選手の引き上げも継続していきたい。